

入選

勇気あるひとこと

群馬県 富岡小学校

6年 折茂志帆

私たちは、夏休みに家族旅行に行きました。

「楽しかったね。」「また、みんなで行こうね。」とみんなで話していたとき、「最後にみんなで写真撮るから並んで。」とお父さんが言って、私たちは夏休みの最後の思い出に家族写真を撮ろうとしました。

「早く撮ろうよ。」と私は言って、セルフタイマーで撮ろうとお父さんが写真の位置を見つけていたとき、「テイクアピクチャー？」と一人の外国の方が声をかけてくれました。

「サンキュー。」と私たちは言いました。取り終わった後、「代わりに撮りましょうか？」とジェスチャーをしながら伝えると、「OK,大丈夫。」と言ってくれました。

「サンキュー、バイバイ。」と笑顔で別れました。そして私たち家族はその後、「優しかったね。撮れて良かったね。あの外国の方はとても勇気があるよね。私だったら、声がかげられない。」など、その外国の方の話をしました。そこで、「私が逆の立場だったらどうだったんだろう？」と考えました。

言葉が通じるかわからない人に声をかけるのは、とても勇気がいります。もし、言葉が通じなくて、いやな顔をされたりしたらどうしようとか、声をかけたら変な人だと思われてしまうかな、とか考えてしまうと思います。きっとその人もきん張していたと思います。

けれど、私たちに勇気を出して声をかけてくれました。その勇気あるひとことで、わたしたちはとてもうれしくなったし、助かりました。だから、私もこれからは悪い方考えるのではなく、私が勇気を出すことで、相手がもしかしたら助かるかもしれないと考えて、困っている人がいたら、助けたいと思いました。

また、ふだんの生活の中でも、目の見えない人や耳の聞こえない人に出会ったこともあります。そういう人たちも、きっと困っていたりすることもあると思います。そのときに、「大丈夫ですか」「何か手伝いましょうか」と勇気を出して、声をかけられたらいいと思いました。

ジェスチャーをしたり、表情で表現したり、優しい口調、言葉などで声をかけられたら、きっといやな気持ちをする人はいないだろうと思います。

それでも、やっぱり知らない人に声をかけるのは、とても勇気がいることだと思います。そんなとき、今回のできごとの外国の方の笑顔と勇気を思い出して、私も勇気あるひとことをかけたいと思います。